

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	NO.2-2(中央)	調査位置					北緯	36° 32' 35.0000"							
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所				調査期間	2007-12-26 ~ 2008-03-21				東経	139° 41' 29.0000"				
調査業者名					主任技師					現場代理人	コ ン 定 者				
孔口標高	164.39 m	角 度			方 向			地盤勾配			使用機種	ハンマー 落下用具			
総掘進長	11.06 m										エンジン	ボ ン プ			

標尺	層高	厚度	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試験深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日	
												深度	10cmごとの打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)								
													0	10	20									
(m)	(m)	(m)	(m)									(m)				(m)								
1	163.39	1.00	1.00		礫混り粘土 (CH-G)	暗褐			粘着中位となり、礫径2から30mmの角礫所々混じる。上部植物根混じる。		02/08 1.54 ――	1.15				24	24							
2					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗褐			礫径2から35mmの角礫主体。礫間粘土、少量の砂にて充填。含水比は下位。1.50m付近より含水比は中位。礫径最大90mm程の礫点をする。		1.45	5	9	10	30	17	17							
3	161.79	1.60	2.60								2.15					36	36							
4					粘土 (CH)	茶褐			粘着強い。礫径5から20mmの礫点をする。含水比は中位から高位。		2.45	8	5	4	30	2	2							
5	160.29	1.50	4.10								3.15	1	12	14	1	36	7	7					02/08	
6					礫混り粘性土 (C-G)	茶褐			粘着中位。礫径2から20mmの角礫所々混じる所々褐色となる。		3.51					30	18	18						
7	159.49	0.80	4.90								4.15	2	2	3	30	11	11							
8					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗褐			礫径2から35mmの角礫主体。礫間粘土、少量の砂にて充填。含水比は下位から中位となり、所々暗褐色に変化。5.60から5.75mの間、暗茶褐色に変化。		4.45					30	28	28						
9					風化頁岩 (Sh)	暗褐			粘土混じり砂礫状となる。		5.15	4	3	4	30	>50	>50						02/09	
10	156.89	2.60	7.50						礫状、岩片状となる。コア長5から10cmの柱状、短柱状コア主体。亀裂多数あり、所々岩片状コアとなる。8.65m付近より黒灰色に変化。9.25から9.35m、9.45から9.55mの間、岩片状コアとなる。9.55mからコア長10cm程の柱状コア主体。		5.45					30	>50	>50						
11	156.59	0.30	7.80		頁岩 (Sh)	暗褐灰					6.15	7	6	5	30	>50	>50							
											6.45					30	>50	>50						
											7.15	8	9	11	30	>50	>50							
	155.89	2.60	7.50								7.45					30	>50	>50						
	155.59	0.30	7.80								8.15	26	24	6	50	>50	>50						02/11	
											8.31					16	>50	>50						
											9.00	50	50		50	>50	>50							
											9.06					8	>50	>50						
											10.00	50	3		50	>50	>50							
											10.03					3	>50	>50						
	153.33	3.26	11.06								11.00	50	6		50	>50	>50							
											11.06					6	>50	>50						